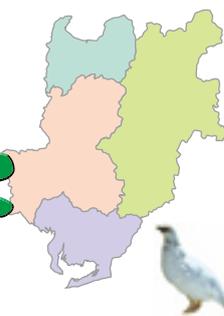




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺での収録

「高山植物の再生大作戦」の テレビ番組『森へ行こう』の収録風景

(P5に関連記事)

<p>主な項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村首長、市議会、マスコミ各社の長、建築士会が会議と国有林視察… P 2～3 ○ 中部森林管理局における「木づかい推進月間」の取り組み …… P 6～7 ○ 「JQAの森林」を調印…………… P 8
-------------	--



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

市町村首長、市議会、

マスコミ各社の長、建築士会が

会議と国有林視察を実施

シカ被害等に論議集中

～南信地区国有林野等

所在市町村長有志協議会を開催

〔南信署〕八月二十八日、南信森林管理署において平成十九年度南信地区国有林野等所在市町村長有志協議会総会を開催しました。

会議は、管内市町村長等十六名と、南信森林管理署長、伊那谷総合治山事業所長ほか関係者が出席し、中部森林管理局からは企画調整室長が出席しました。

会議の冒頭に、久保田署長から、国有林野事業の管理運営への協力に対する御礼や国有林の独立行政法人化への検討状況、CO₂排出削減対策の動き、森林吸収源対策の取組内容などの諸情勢につ



各市町村長等との会議の様子

て説明がありました。

続いて、間島企画調整室長から「美しい森林づくり」を目指した中部森林管理局の主な取組等を、佐光南信署次長からは署の取組内容を説明し、その後、意見交換を行いました。

意見交換では、各市町村から官行造林の解除や治山事業の実施に向けた要望、シカ、クマ、サルなどの野生獣害の問題、さらには、南アルプスの世界遺産登録に向けた活動などについて発言がありました。なかでもニホンジカ被害については、諏訪、上伊那、下伊那の各地の市町村が直面する深刻な問題として活発な意見が交わされました。

最後に世話人を代表して酒井伊那市副市長から、森林・林業、国有林を取り巻く課題が山積する中、関係市町村には本協議会に積極的に関与していただき、南信地区全体で森林の保全や地域の活性化を実現していきたいと挨拶があり、今後の地元市町村と国有林の連携強化に向けた有意義な会議となりました。

『東信ブロック国有林野等所在市町村長

有志連絡協議会の開催』について

〔東信署〕九月十九日、東信森林管理署会議室において小諸市長をはじめ御代田町長や北相木村長の出席を頂き、また、管内市町村担当者と国有林野に対する要望などの意見交換会を開催しました。

協議会の冒頭署長から、間伐の推進等



有志連絡協議会の様子

本日の意見・要望等については、今後の国有林野の管理経営に反映するとともに地元市町村のご支援とご協力をお願いし閉会いたしました。

国有林治山を視察

～高山市議会へ

〔飛騨署〕十月三日、高山市議会文教経済委員会の議員八名が穂高国有林（高山市奥飛騨温泉郷神坂）の治山事業地と林野庁巨樹・巨木一〇〇選の「平湯大ネズコ」を視察しました。

今回の視察は、市町村合併に伴い日本一広い市となった高山市にあって、奥地で行う国有林治山事業が地域からなじみが薄いといった声が聞かれたことから、治山事業を主体とした現地視察を実施したものです。

視察会は署長外四名が案内をし、午前中は、昨年七月の豪雨により被害を受けた穂高（柳谷）施設災害復旧治山工事のほか、林道の災害復旧工事を視察しました。

現地視察した委員からは、「砂防工事の更に奥の国有林でこのような大きな治山事業が行われていることは初めて知った。」「森林を守るために治山工事や林道工事が実施されていることがよくわかった。」などの意見が出され、国有林の取組むについて理解を深めて頂きました。

午後からの平湯大ネズコの視察では、

による健全な森林の整備、保安林の適切な管理・保全等の取り組みと開かれた国民の森林の実現に向けた管理経営に関すること、第三次千曲川森林計画区施業実施計画の策定にあたっては、地元市町村長の意見の聴取等の説明と併せ、本日は、地元市町村のそれぞれの立場から直接意見をお伺いし、当署の国有林の管理経営に適切に反映していきたい旨の挨拶がありました。

意見交換では、小諸市長から、生活環境保全整備事業の計画について、地元と国有林がこの事業を有効に活用できるような計画にするよう要望があり、また、登山道の整備に関する要望や浅間山麓市町村からは、獣害対策として緩衝帯の設置を実施してほしいなど国有林に対する意見・要望が活発に出されました。



担当の説明を聞いて

「平湯巨樹・巨木保全協議会」の村山昌夫さんから、地元のボランティアによる保全活動の取り組みが紹介されました。

大ネズコに直面した議員からは、「大きいとは聞いていたがこれほど大きいとは。」、「二〇〇〇年を経た今も生き生きしている生命力に感動した。」といった声が聞かれ、しばし見入っておられました。

また、昼に行った意見交換会では、「地域の森林整備に向け国有林がリーダーシップをとってほしい。」「県や市と連携した森林整備の推進に期待したい。」などの要望がありました。

視察を終え島田高山市議会議長から行政視察会の礼状が届くとともに、委員の方からは奥山で危険と隣り合わせの治山工事に感謝。機会ある毎に国有林の役割をPRしたいといった礼状が寄せられ、日頃の職員や事業者の努力を理解して頂くことができました。

今回は森林整備の現場を、といった要

望もふまえ今後取り組みにしています。

金曜会の国有林視察

―長野県内マスコミ各社の長―

関田トレイルを体験

【広報】十月十日、金曜日（長野県内マスコミ各社の報道責任者の会）による恒例の国有林視察を北信署管内の関田トレイルで実施しました。

関田トレイルは、長野県と新潟県の県境に位置する関田山脈の斑尾山から天水山までの約八十キロメートルのロングトレイルコースで、現在、斑尾山から牧峠まで五十キロメートルが整備されています。

今回は、関田峠から牧峠までの四・四キロメートルを歩いてトレイルコースを体験しました。

森林管理局からは小祿局長、有井広報主任官が同行し、北信署から村松署長、小林調整官が案内に当たりました。

当日は、好天に恵まれ普段歩きなれないメンバーの皆さんも紅葉の始まったブナ林を堪能しました。

途中では、雪で曲がったブナが生長とともにまっすぐになっていく様子が見られ、たくましいブナの生命力に驚かされ、また、クマがかじった跡のある標識や遠く日本海や佐渡島、米山、北信五岳苗場山などの景色も楽しめました。

関田トレイルの整備は、北信署と関東森林管理局の上越森林管理署とNPO法人「信越トレイルクラブ」の三者が協定



熱心に説明をする小林調整官

を締結して国有林をトレイルのフィールドとして提供し、積極的に活動を支援することとしており、具体的な整備・調査等は「信越トレイルクラブ」がボランティアを募り実施しています。

整備された歩道を歩きながら参加者からは「いつもデスクワークなので自然の中を歩いて気持ち良かった。」「トレイルコースはすばらしいが、見通せる場所をもっと多く作ると更にすばしくなる。」などの意見が聞かれました。

愛知県建築士会の皆様来局

【企画調整室】九月二十一日、愛知県建築士会の七名が来局し、冒頭建築士会の



意見交換会の様子

代表が「建築基準法が改正され木造住宅の確認申請が厳しくなったなか、建築士にも木材についての知識が求められていることから、木材や森林・林業について学ぶ場として『木造塾』を立ち上げることとした。

ついでには、森林・林業のプロである森林管理局のご助力をいただけないか。」と協力要請がありました。

その後、企画調整室長、販売課長を交えて二時間の意見交換・質問等を行い、国有林野事業や森林・林業の現状等について理解をいただきました。

中部局では今後とも、情報やフィールドの提供等状況に応じて、適宜協力していくこととしています。

新任幹部挨拶

新計画部長

上野 司郎



この度十月一日付けの異動により計画部長を拝命いたしました上野でございます。歴史と伝統ある中部森林管理局の一員として勤務できますことを光栄に思っております。種々の課題に取り組み国有林の使命を果たしていくためには、地域との連携、明るく活気ある職場づくりが必要であり、私自身もこの点を旨として努めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

当局管内の勤務は初めてですが、学生時代を中心に立山、白山、能郷白山、白馬、穂高、常念、八ヶ岳、仙丈等の登山を楽しんでおりましたので、そういう意味では多少のなじみがあります。また前職の関係では多くの山地災害の現地調査等に携わり、特に昨年の諏訪地方を中心とする梅雨豪雨災害では中部局を始め、長野県、市町村等関係の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて篤く御礼申し上げます。

林業を取り巻く状況は依然として厳しいものがありますが、昭和五十年代中葉をピークとして低下を続けていた木材価

格もここ数年で底を打ったように見えませんが、国産材の自給率も久々に二〇%台に回復する等明るい兆しが見られるようになっていきます。資源的にも中高齢級の人工林の比率が高まってきており、地域あるいは流域が一体となって国産材の安定的な生産流通体制を確立する好機と言えます。川下との連携による需給の安定や流通構造の改善に加え、高密度路網に支えられた低コスト作業システムによる生産性の向上が重要であると考えております。こうした林業再生の動きの中で少しでもお役に立てるよう微力ながら努力して参りたいと考えております。

また、当局は本州の中央部、太平洋から日本海にわたる地域に位置し、日本アルプスに代表される多様で豊かな自然に恵まれています。こうした自然は今や、かけがえの無い国民の宝です。国有林はその中核的存在としてその機能の維持向上に努め、国民の負託に応える必要があります。現在、ヤツガタケトウヒ等の保護林設定に向け検討を進めており、今後ともこうした取り組みに加え、木曾ヒノキ等優良な森林資源の保続培養、国有林材の供給や国有林野の活用を通じた地域振興等に努めて参りたいと考えておりますので関係各位の一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

◆上野部長の略歴

生年月日 昭和32年4月13日
本籍 大阪府堺市

略歴 京都大学農学部林学科卒

(S56・3)

- 昭56・4 林野庁林政課採用
- 平2・4 前橋局山口営林署長
- 〃4・4 前橋局企画調整室監査官
- 〃5・4 同局企画調整室長
- 〃7・4 通商産業省農水産課調査専門職
- 〃7・10 通商産業省総務課調査専門職
- 〃10・4 林野庁業務第一課課長補佐
- 〃12・4 林野庁森林組合課課長補佐
- 〃13・1 林野庁経営課課長補佐
- 〃15・4 広島県農林水産部林務総室長
- 〃18・4 林野庁治山課山地災害対策室長
- 〃19・10 中部森林管理局計画部長

お世話になりました

前計画部長

長江 恭博

平成十七年四月に中部森林管理局計画部長に就任して以来、職員の方々をはじめ多くの方々には大変お世話になった。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、在任中には当然様々なことがあったが、やはり一番に挙げられるのは、過去に職員が国有林内に廃棄物を不法に投棄していたことが管内二署で相次いで明らかになったことであろう。約一年間にわたり、県、市、警察、マスクミ、本庁との対応に追われたため、一時『ゴミ部長』と呼ばれるほどであった。また、天然林伐採に反対する自然保護団体が、全国の国有林の実態調査の一環と

して木曾谷を訪れることとなった時は、調査箇所の選定、想定される論点の整理等周到な準備を行い、以降大きな問題とならないよう意を尽くした。その翌年の木曾谷森林計画区の森林計画等の編成に当たっては、特に木曾ヒノキに関する森林施策を大きく見直すことにより地元の理解を得るとともに、その基本的考え方を局ホームページに掲載するなどして説明責任を果たすよう努めたことなどが思い出される。

一方、プライベートにおいては、職場の仲間との常念岳及び蝶ヶ岳十四時間登山、ゴールデンウィークの奥穂高岳登山、今年の夏の白馬岳から日本海親不知に至る標高差約三千メートル踏破など、地の利を活かして山登りとスキーに励むことができた。そのほかにもラーメンや寿司の食べ歩き、温泉巡りなど信州で過ごした二年半は本当に思い出深い。

十月からは茨城県つくば市で勤務しているが、独立行政法人のためよって立つ法律がほとんどない上、研究機関という性格からラインより個人個人で仕事をこなすというスタイルが主流であり、これまでの経験があまり役に立たず、大いに戸惑っているところである。また、通勤は車(約三十分)の上、人口二十万都市ながら関東平野のど真ん中に造られた人工都市のためネオン街がない、海は近いが山は遠い、近くに温泉も無いという息抜きを極めてにくい環境にある。この

ように、筑波での生活は、長野時代とは公私ともまったく様変わりしてしまっている。

人のういき

中部森林管理局人事

九月三十日付

▽退職（独立行政法人森林総合研究所企画部研究管理科長へ）（計画部長）
長江 恭博

▽退職（総務部総務課長）
三石 敬一

十月一日付

▽計画部長（林野庁森林整備部治山課山地災害対策室室長）
上野 司郎

▽総務部総務課長（職員厚生課長）
洞 和雄

▽総務部職員厚生課長（企画調整室監査官（労務担当））
土屋 正泰

▽林野庁出向（林政部経営課経営対策官森林整備部整備課併任へ）（企画調整室管理官兼伊那谷総合治山事業所）
遠藤 洋一

▽林野庁出向（企画調整室監査官（労務担当）（計画課課長補佐））
上條 浩明

▽企画調整室管理官兼伊那谷総合治山事業所（総務課研修主任官）
辻ノ内良明

▽総務部総務課研修主任官（近畿中国局和歌山署高野首席森林官）
佐藤 睦

▽計画部計画課課長補佐（計画課測定技術指導官）
相澤 義継

▽計画部測定技術指導官（中信署業務課長）
松嶋 克彰

▽中信森林管理署業務課長（飛騨署業務第一課長）
上島 弘幸

▽飛騨森林管理署業務第一課長（中信署有明森林事務所上席森林官）
織部 論

▽中信森林管理署有明森林事務所森林官（南木曾支署業務課課長）
末安 桂

▽南信森林管理署和田森林事務所森林官併任（南信署上村森林事務所森林官）
南坂 博和

▽木曾森林管理署贄川森林事務所森林官併任（木曾署奈良井森林事務所森林官）
田中 拓馬

▽森林整備部治山課伊那谷総合治山事業所付（南信署和田森林事務所森林官）
森田千恵子

▽中信森林管理署業務課付（中信署業務課森林ふれあい係長）
宮嶋 沙織

▽中信森林管理署治山課付（木曾署贄川森林事務所森林官）
百瀬 裕章

高山植物の再生大作戦

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」

自然再生事業の一環として、平成十七年度より実施している貴重な高山植物の復元ボランティア作業を、今年度も九月十九日に中央アルプス伊那前岳八合目の登山道周辺において総勢三十六名が参加し実施しました。

今年度の作業箇所は、毎年、夏山シーズンに地元の駒ヶ根市や宮田村などの中学生が学校登山で多いときには約三〇〇人程度が休憩する場所となっており、たくさんの方の目に触れる場所で、植生を復元させることにより中学生等に対する貴重な高山植物を守り育てるという環境教育を実践できる場所として期待されています。

なお、作業当日は、雲ひとつない晴天に恵まれ、眼下に一面の雲海を眺めながら、参加者は、復元作業に使用する植生マットを背負い上げ、日本森林技術協会の職員からの作業手順の説明を受け植生マットの敷設作業に汗を流しました。

今回参加されたボランティアの人達は、二十代の大学生から最高七十八歳の男性までいろいろな年代の人達が参加し作業を行いました。「植生復元の大切さがわかった。」「来年もぜひ参加したい。」等の意見や要望をいただき、全員ケガもなく無事に予定された作業を終了

することが出来ました。

当日は、中部森林管理局が作成しているテレビ番組『森へ行こう』の「高山植物の再生大作戦」の収録も行われ、登山は初めての木竜アナウンサーも一時間半ほどかけて作業現場へ登山をしました。

収録では、寺澤自然再生指導官が作業内容の説明や紹介をマペット人形の林太郎さんと木竜アナウンサーとともに分かりやすく説明をして無事収録を終了しました。

今回、収録した内容は、テレビ信州で十一月四日の午前十一時四十五分から放送します。『森へ行こう』は、毎週日曜日の午前十一時四十五分から放送しています。



マット敷設作業を収録する高木カメラマン



【販売課】 十月期の「木づかい推進月間」に合わせ、森林管理局の庁舎正面の壁に「木づかいは誰でもできるエコ活動」の垂れ幕を張り、PRをしています。

また、正面玄関フロアーには、木曽官材市売協同組合、長野県木材協同組合連合会、長野森林組合の協力を得て、森林整備を通じて搬出された木材を利用した壁板、フロアリング、サワラ桶、木柵、テーブルなどの木材製品を展示し、来局者に間伐材の利用促進をPRしています。



局正面玄関フロアーに展示した木材製品



垂れ幕

「木材の利用推進」を！
「木の日」の要望活動

「名古屋事務所」名古屋事務所では、「木の日」(十月八日)にちなみ、愛知県、岐阜県へ、両県の木材利用推進協議会(愛知県・上地宏保会長、岐阜県・後藤直剛会長)と連携し、「木づかい運動」のPRと「木材利用の推進」に関する要望活動を行いました。

十月十一日の両日、岐阜県知事・愛知県副知事はじめ両県議会・教育委員会等、また愛知県では東海農政局・中部地方整備局、岐阜県では県警本部等へ、木材利用に関係する部局長等に対し、



古田岐阜県知事への要望活動



稲垣愛知県副知事への要望活動

「木材の利用推進に関する要望書」を手渡し、公共施設・諸学校の木造化・内装木質化・土木工事等における間伐材の積極的な利用、地域材を利用した木造住宅の建築促進、木質バイオマスエネルギー利用の積極的推進等、理解と支援をお願いしました。

「省エネ住まいEXPO2007」

【販売課】 十月五・六日の二日間、長野市ビッグハットにおいて、「省エネ住まいEXPO2007」が開催され、中部森林管理局では、長野県木材協同組合連合会と連携し、壁板、フロアリングなどの木製品や、美しい森林づくりの取組をPRするパネル展示等を行い、来場者に地球温暖化防止に向けた取り組み等をPRしました。



省エネ住まいEXPO2007の中部森林管理局のパネル展示



【販売課】 平成十九年度国有林野事業販売協力者の感謝状贈呈式を、十月十日、木曽官材市売協同組合入札会場において土場活用委託販売と併せて開催し、昨年度、国有林材の積極的な購入と木材の利用促進に協力いただいた方々に林野庁長官と中部森林管理局長の感謝状を贈呈しました。

平成十九年度国有林野事業

感謝状受賞者(敬称略)

◆ 林野庁長官感謝状

〔立木販売の部〕
ひのき精香株式会社
(長野県木曾郡上松町)

〔製品販売の部〕
株式会社勝野木材
(長野県木曾郡南木曾町)

◆ 中部森林管理局局長感謝状

〔立木販売の部〕
神岡林業協同組合 (岐阜県飛騨市)
丸真木材 (岐阜県高山市)
高橋建設株式会社
(岐阜県揖斐郡揖斐川町)

〔製品販売の部〕
嶋田木材株式会社 (愛知県豊川市)
株式会社西村木材店
(三重県松坂市)

のむら木材株式会社

(長野県木曾郡上松町)

株式会社古根林業所

(長野県木曾郡大桑村)

池田木材株式会社

(長野県木曾郡上松町)



感謝状を贈呈されたみなさん

る打ち合わせが行われました。

◆局長訓示

全体会議では、小椋局長から

- ①平成十九年度事業全般的の進捗状況、
- ②収入確保に向けた取り組み、③国有林野事業改革の現状、④平成二十年度林野庁予算概算要求の概要、⑤労働安全の確保について

◆次長訓示

- ①コンプライアンスの徹底、②平成十九年度事業（収入・支出）、③労働安全の確保、④民国連携による国産材の安定供給体制の整備及び美しい森林づくり推進国民運動の展開、⑤山地災害等への適切な対応について、訓示がありました。

◆総務部長説示

- ①綱紀の粛正（不適正事案の防止、道路交通法の遵守、情報連絡、発注者綱紀保持委員会及び小委員会）、②労働時間短縮の取り組み、③研修・広報、④労働安全の確保（労働安全の確保等、交通安全の確保、蜂刺され防止）、⑤一般競争入札、⑥適正な予算執行、⑦物品等の善良な管理について

◆計画部長説示

- ①計画樹立（伊那谷、木曾川、東三河）、②境界の保全管理、③流域管理システム（民国連携）、④天然林施業⑤国民参加の森林づくりの推進（ふれあいの森、木の文化を支える森づくり、民間団体等の多様な活動を推進す

るための協定）、⑥森林環境教育の推進、⑦貴重な森林や動植物の保護対策、⑧技術開発の推進と普及、⑨林野

- ・土地売却、⑩国有財産の適正管理、⑪森林の保全管理、⑫分収林関係、⑫官行造林について

◆森林整備部長説示

- ①平成十九年度販売事業実行（販売事業及び素材生産事業の進捗状況）、②森林整備（育林・林道事業の完遂、森林吸収源対策の現地調査）、③治山事業（治山事業の適正な実施、災害等の速やかな対応、保安林の適正な管理、治山事業のPR）、④一般競争入札への切替、⑤予定事業量の完遂、⑥低コスト・高効率作業システムの導入、⑦平成二十年度の収穫量・生産量、⑧労働安全の確保について説示がありました。

引き続き企画調整室長から、平成十九年度予算執行、本庁監査、会計検査等について、経理課長から平成十八年度決算概要、一般競争入札、契約の適正化（公表）、年度末の支払事務等についての説明後、署長等と意見交換が行われ、会議を終了しました。



署長会議で訓示する小椋局長

テーマは

「あなたがイメージする美しい森林(もり)」

森林(もり)の絵画コンクール

「名古屋事務所」中部森林管理局名古屋事務所、中日新聞社、中部日本治山治水連盟主催の森林の絵画コンクールの表彰式が十月十四日(日)、名古屋熱田区神宮にある名古屋市教育センターにおいて行われました。応募総数三百三十八点の中から入賞作品として選ばれた二十点が表彰されました。

このコンクールは、木材の供給はもとより、きれいな水や空気の源として、さらに国土や生活環境の保全、安らぎの場の提供など私たちの生活に様々な恩恵を与えてくれる森林の大切さを、次代を担う子供たちに、絵画を通じてもっと知っていただき、より身近なものとしていただきたいとの思いで、平成九年度から取り組んでいるもので、今年で十回目となります。テーマは、「あなたがイメージする美しい森林」や「あったらいいな森林」などとなりました。昨年度とほぼ同数の、多くの作品の応募をいただきました。

表彰式では、小林名古屋事務所長が、「どの作品も、力作揃いで、審査は大変難航いたしました。また、森林に対する想いが、鮮明に描かれていると感じられました。森林や環境への関心の高さを感

平成十九年度
第二回 森林管理署長等
会議を開催

十月十六日～十七日、森林管理局において署長等会議が開催され、局長等会議(九月二十日～二十一日開催)、事業担当部長会議(十月四日～五日開催)を踏まえた指示及び本年度の業務運営等に関わ



金賞 中学生
林あすみさん「夜の森」



金賞 小学生高学年 中村祐介くん「真の森の姿」

じ、その反響の大きさに国民の森林を預かる者として、改めて責任の重さを感じております。最後に、中部森林管理局では、国有林をフィールドとした森林環境教育に積極的に取り組んでいますのでご活用いただければと思います。」と挨拶と審査経過を述べられました。引き続き、小林所長から中部森林管理局局長賞

(金賞) 及び名古屋事務所長賞(佳作)、中日新聞鈴木社会事業部長から中日新聞社賞(銀賞) 及び中部日本治山治水連盟賞(銅賞) が渡されました。
なお、作品の展示については名古屋市教育センターにおいて、十月十二日から十四日まで開催しました。多くの応募者の家族が訪れ、家族で楽しそうに会話する姿が見られました。また、十月二十三日から十一月十八日の間、瀬戸市の森林交流館において展示(学年別) していま



展示された作品を見ながら

「JQAの森林」を調印

都会の企業が 飛驒と交流

「飛驒署」九月二十八日に高山市清見町の彦谷国有林で「法人の森林」の調印式と記念植樹が行われました。

これは、財団法人日本品質保証機構(JQA)(本部東京都千代田区)が、環境管理活動の一環として、また本年十月の創立五十周年記念事業の一環として平成十九年九月三日に中部森林管理局長と「法人の森林」(面積一・八七㌔)の協定が締結され、これを記念した調印式及び記念植樹行事が現地国有林で行われたものです。

調印式には、(財)日本品質保証機構から森本理事長の外五名が、中部森林管理局から小禄局長のほか署関係者八名が出席し執り行われました。

日本品質保証機構はこの森を「JQAの森林」と命名。挨拶にたった森本理事長は、JQAがISOの認定や地球環境の保全事業にも取り組んでいること、五十周年を記念して協定期間を五十年としたこと、ふれながら、「日本品質保証機構とともにこの森林を見守っていき、環境や地域のお役にたてて参りたい。」と抱負を述べられました。

記念植樹では、JQA本部がある千代田区の花にちなんでヤマザクラ、岐阜県

及び高山市の木であるイチイ、そして飛驒市と白川村の木であるブナの木が植えられ、都会と飛驒の交流の証となりました。

JQAでは、飛驒の豊かな自然、林内を流れる清らかな溪流とせせらぎの心地よさ、東海北陸自動車道飛驒清見ICに近く交通アクセスの良さなどから当該地での協定を希望されたもので、今後社員や家族など都市部の人たちが「JQAの森林」をご縁に飛驒との交流の場となる



協定を締結した森本理事長と小禄局長

各地からのたより

「下呂市内15小学校を対象に 森林の大切さをコーチング」

〔岐阜署〕岐阜森林管理署では、下呂ロータリークラブ（会長 山下悦良氏）の要請を受けて今年度も昨年に引き続き、下呂市内の十五小学校を対象に森林教室を開催する予定です。

平成十八年度は十五校中、十一校から森林教室の要請があり、各学校に出向き、森林教室を実施しました。

森林教室の実施日は現在、調整中ですが、十月三十日の萩原小学校三クラスと総島小学校一クラスを皮切りに二月頃までを目途に実施します。

主な実施内容は地球温暖化問題を中心に森林の大切さをコーチングし、いっしょに学んでいく予定です。



雨はどのように流れ出すのかな

この他に実験器具を使い、水源かん養機能や国土保全機能を学んでいく内容も計画しています。

今年は「教える (Teach)」という観点から、「指導 (Coach)」という観点で森林教室を行うことを目標として、生徒ら自らが地球温暖化防止のため身近に来ることを考えられるように指導していきたいと考えています。

定光寺で

バードウォッチングを楽しもう

〔名古屋事務所〕九月二十二日、第六回目となる森林ふれあい講座「定光寺でバードウォッチングを楽しもう」を瀬戸市の定光寺公園正伝池で開催し、一般市民から応募のあった二十名が参加しました。

はじめに、尾張自然観察会の加藤良子講師から、定光寺公園周辺で見られる野鳥の種類と特徴について説明を受け、その後、双眼鏡の使い方について学び、バ



野鳥を探して

ードウォッチングに入りました。

正伝池にはカルガモが優雅に泳いでいたり、カイツブリが頻繁に水中に潜り餌を取っている様子が観察できました。また、池の周辺をセグロセキレイが飛び回ったり、木の枝で羽休みをしているアオサギ、木の梢に止まっているモズなどを観察することができましたが、いつもは見ることができずカワセミがこの日はかり姿を現さず講師の方も残念がっていました。

時間が短かったため、多くの野鳥を観察することができませんでしたが、参加者からは、「野鳥に興味を持つていたので、いろいろ勉強できた。」「楽しい時間が過ごせた。」などの感想が寄せられました。

森林整備を体験

〔名古屋事務所〕十月からの郵政民営化を前にした九月二十三日、日本郵政公社労働組合（JPU）青年部の「スタートアクションフォレストキャンプ」が、定光寺自然休養林内の定光寺キャンプ場で行われました。

この行事は、森林の大切さと森林整備の重要性を学び、体験したいと当所に申し入れがあったため、要望に応え実現しました。

当日は、森林の現状と森林の働きについての講話を行った後、間伐、刈り払



慣れない鋸で丸太切り

い、丸太切りの体験作業に入りました。

間伐作業では、班毎に分かれ、それぞれが協力しながら一本一本慎重に安全を確認しながら間伐を行っていました。また、間伐木の樹高を目視により予想する問題を行ったところ、一名がみごとにピッタリ正解し周辺を驚かせていました。

間伐作業とは別のグループは、刈り払い作業と丸太切り体験を行い、下刈鎌を使って樹木見本林内の刈り払いを行い、ササの繁茂している林内での作業に悪戦苦闘していました。また、丸太切りの体験では、班に分かれ丸太を切る速さを競い合い大いに盛り上がりました。

九月下旬とはいえ、まだまだ暑さが厳しいなか、参加者は汗だくで作業を行っていましたが、「想像していたより大変だった。」「森林整備の大切さが分かった。」「いい経験ができた。」などの感想が寄せられ有意義な一日となりました。

「木曾川・森づくりin赤沢」

を開催

「ふれあいセンター」九月二十九日、木曾川の上・下流域住民が、森林整備や自然観察を通じ交流を図る「木曾川・森づくりin赤沢」を長野県上松町の「赤沢自然休養林」で開催しました。

当日は、秋雨前線の影響で小雨模様でしたが、下流域である愛知、岐阜両県及び上流域の木曾郡内等から応募された親子を含む約七十名の方が参加して、ヒノキ林の間伐と自然観察を行いました。開会式では、横谷指導普及課長より主催者挨拶があり、協賛の上松町の曾我副町長から歓迎の挨拶を頂き、引き続き、各班に分かれてイベントを開始しました。

間伐作業は、二人〜三人が一組になり、スタッフの指導の下、ノコギリを使用して伐倒、枝払い、玉切り、集積までの作業を行いました。参加者は鋸を挽く姿勢も真剣そのもので、慣れない作業に息を弾ませながら気持ちのいい汗をかいていました。

また、自然観察では、森林鉄道に乗りし終着駅までの景色を楽しんだ後、やまぼうし自然学校のインストラクターの案内で、樹齢三百年をこえる木曾ヒノキ林内を散策して、森林の豊かさを満喫しました。

この他、今年から親子でも参加できる



ヒノキ大樹の前で自然観察

ようネイチャークラブも行き、子供たちが大小の輪切り材や小枝、木の実等を材料に、オリジナルの壁掛けや飾り物を製作しました。

昼食後は、グループを交代し各プログラムを実施した後、閉会式を行いました。参加者からは、「すばらしい自然に接することができて感動した。いろいろな人達との出逢いができてとてもうれしかった。」「森林整備の大切さと大変さがわかった。機会があればまた参加したい。」「といった声が寄せられ、森林や林業の大切さを理解して頂けたことと、併せて木曾川上下流の交流を深めることができました。

天生県立自然公園(天生国有林) 合同パトロール

【飛騨署】十月六日、天生県立自然公園(天生国有林)において、合同パトロールを行いました。

この取り組みは、天生湿原の植物等保護管理の啓発・摘み取り・踏み荒らし等の未然防止を目的に、当署が主催し、警察署及び天生県立自然公園協議会の協力

を得て、春期と秋期の年二回行っているものです。

当日は、ブナやカエデ、ダケカンバ等の紅葉が僅かに色づく三連休初日、マイカーやバス利用による散策者が訪れるなか、パトロール員十二名が粉糠山コースと木平湿原コースの二班に分かれパトロールを行いました。

天生湿原は、植物群落保護林のほか、県の文化財に指定されていますが、近年湿原内へのイヌツゲの侵入が著しいことから専門家の意見も踏まえ、この秋に一部除去作業を実施しました。訪れた登山者からは「昔の景色が戻って嬉しい。」といった声が聞かれました。

今回のパトロールを終えた参加者からは、遊歩道整備やゴミの持ち帰りが徹底されているなど、登山者の協力金を生かした日頃の努力と成果に対する感想があった反面、マナーの認識が低い散策者への口頭注意の報告もありました。

今後も継続して合同パトロールを開催し、関係者が一体となって天生県立自然公園の植物等保護管理の啓発活動等に取り組んでいくことを確認し散会しました。



合同パトロールの様子

管内ソフトテニス大会を開催

第二十八回管内ソフトテニス大会が九月十五日安曇野市において、OB、現役を含め参加十四チーム総勢九十名にて開催されました。

今回は、中部局となって初めて旧名古屋管内からも一チーム参加し、大会を盛り上げてくれました。

当日は、残暑厳しい好天に恵まれ、水分補給を行いながら試合に臨んでいましたが、少しずつリタイア気味の選手が 발생し、ひやひやする場面もありましたが、順調な試合運びで無事終えることができました。

十四チームを厳正なる抽選により三ブロックに分けて試合を行ったのですが、敬老の日も間近の大会ということもあってなのか、結果はすべてOBチームが優勝となりました。大会会長の箱石総務部長より各ブロックの優勝チームと準優勝チームへ賞品が贈られ、来年また大勢の選手が集えることを祈念し閉会となりました。



参加者一同

シリーズ 16

実験林・試験地等紹介



「森林技術センター」この実験林は、人工林ヒノキを皆伐した後の植栽二代目ヒノキ造林地において、広葉樹（コバノヤマハンノキ）との混植や施肥を行い、地力低下の防止対策を考える一資料とすることを目的に昭和四十年（一九六五年）に設定されました。

コバノヤマハンノキは、ハンノキ属の中でも生長が早く、通常の土壌中では不足しがちで植物の生育に必要な窒素化合物を作る根粒菌の着生もよいため、古くから肥料木として荒廃地の緑化木に活用されてきました。

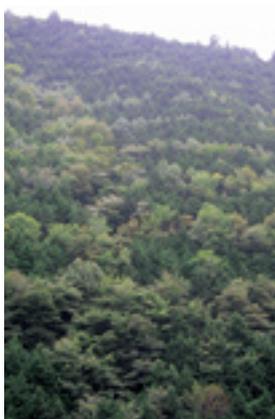
実験林内には、ヒノキとコバノヤマハンノキを七：三の割合で帯状に植栽した縦筋混植区と横筋混植区、ヒノキ単純林の対照区の三区画が設定されています。各試験区には、それぞれ〇・一鈔の標準地があり、そのプロット内において植栽の翌年から下刈完了時までには毎年、十年生以後は原則五年毎に生長量を調査し、主伐に至るまでの生長度合いや形質のほか施業経過を記録しています。

植栽されたコバノヤマハンノキは、ヒノキに及ぼす被陰効果を考え適当な樹齢

に達したときに伐採する計画になっており、林齢が十五年生に達した昭和五十六年実施の除伐、同六十二年実施の除伐Ⅱ類によって伐採され、平成四年の調査段階ではほとんど除去・消滅しています。現在は天然下種更新により、クリ・コナラ等の広葉樹が侵入し、筋状の針広混交林となっています。

今後は、新たに侵入してきた広葉樹を含め、公益的機能を高度に発揮する針広混交林分の指標として観察を続けるほか、針広混交林試験地（本洞国有林一〇四九ほ林小班）の育成方法の参考にすることとしています。

所在地：下呂市小川 小川長洞国有林 一〇二二い林小班 九・七二鈔（プロット 〇・一鈔×三箇所）



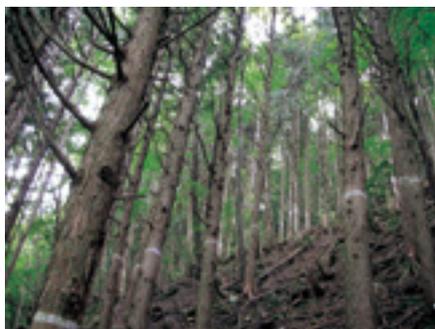
横筋区全景



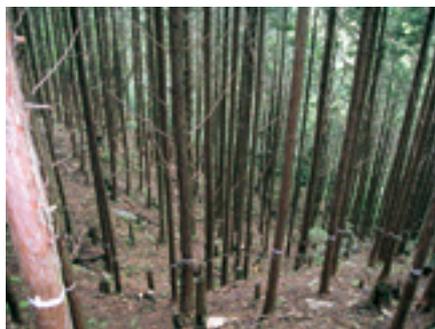
縦筋区全景



縦筋区プロット内



横筋区プロット内



対照区プロット内

行事・会議等の予定

◎名古屋シテイフォレスト事業

11月9日 東濃署管内

11月17日 愛知所管内

◎会計実施検査

11月12～16日

◎中部森林管理局実地監査

11月21～22日 東信署管内

◎国有林野管理審議会

11月27日 中部森林管理局

お悔やみ申し上げます



故上原幸雄氏

木曾森林管理署駒ヶ岳森林事務所 基幹作業職員

上原幸雄氏（五十一歳）は九月十六日にご逝去されました。

同氏は、昭和五十九年に上松営林署に採用され製品生産事業及び造林事業の最前線で活躍されてきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



木曾義仲公と『権現滝』

「木曾署」城山国有林は木曾福島の市街地の北西に隣接し、標高は七九〇～一、二八九メートル、名前は一五五六年に築城された福島城跡があることに由来します。

権現滝は、この城山国有林にあり、主峰児野山（一、二八一メートル）から流れ出る黒木沢の中ほどに赤チャートの岩の大きな落差と天然林の中に静かに流れ落ちる様子が特徴で、しばし下界の煩わしさを忘れさせてくれるスポットとなっています。

この滝は、木曾義仲が平家追討の兵を挙げた際に、この滝で御岳大権現の出現を願い、沐浴祈願したことからこの名がつけられたとの謂われがあります。

滝の手前の紅葉ヶ丘からは、木曾川の流れが緩やかに町の中心部を流れる木曾福島の町並みを眺めることができます。周辺の天然林には、二五〇年以上の木

曾ヒノキやモミ、ツガ、ケヤキ、カツラ等の大木が鬱蒼と茂り、市街地に接する場所とは思えないほど静かな環境を作り出しています。

一帯は城山風致探勝林に指定され、遊歩道が町中から直接連絡し、行人橋から滝までの最短コースでは片道一キロ弱五十分で到達出来ます。

当署の城山林道も開放されており、町に近いことから地元住民や観光客がよく訪れています。

城山国有林の入口には、興禅寺があり、木曾義仲公の墓があります。

◇アクセス方法

「公共交通機関」

JR中央本線木曾福島駅下車

タクシーで十五分 徒歩で五分

木曾福島駅から徒歩のみで六十分

〈参考〉「義仲」について

木曾義仲は、六条判官源為義の孫、帯刀先生義賢の次男として久寿元年に武蔵国大蔵に生まれ、幼名駒王丸といった。

当時義賢の実力を恐れて兄の義朝は長子義平に命じて義賢を亡きものにし、更に駒王丸の血筋の畠山重能に駒王丸まで殺すことを命じた。

この畠山は二歳の子を殺す事が出来ず結果として駒王丸の乳母の夫である信濃の権守中原兼遠に養育を頼んだ。

駒王丸は仁安元年一三歳で元服木曾次

郎義仲と名乗った。兼遠が義仲の館を宮の越に築き、側女には巴を添えた。京都では、平氏が増長し、行い目に余るものであった。

これを憂いた源氏の老将頼政が後白河法皇の第三皇子と献策し、実質の宮の令が発効し、諸国の源氏が動いた。

このころ義仲は、木曾の山林で知勇備え武技に秀でた素質を表し、木曾の地で天下形勢を知り、いかに平氏を討ち源氏再興を図ろうかと機を窺っていたところへ令旨が届き、ここぞとばかり奮起し

た。

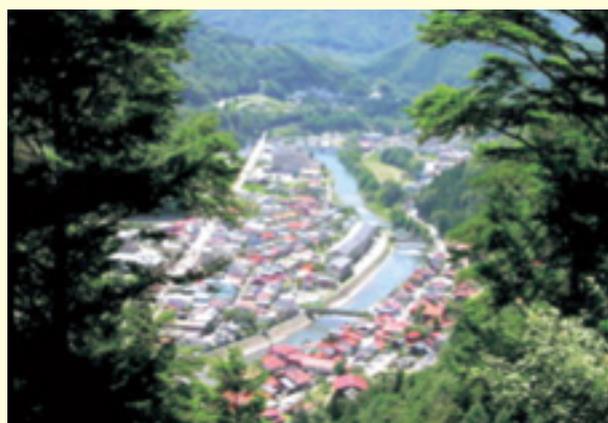
当時信濃の情勢も豪族は源氏に心を寄せる者が殆どで義仲が平氏討伐の兵を挙げるや呼応して信濃全体が味方した。

その後の戦に於いても平氏に反する勢力等の加勢もあって見事に平氏を討つことに成功した。

（参考文献：木曾の山林を巡る歴史 北沢啓司著 一部要約）



涼しげに流れ落ちる権現滝



木曾川と木曾福島の町並み